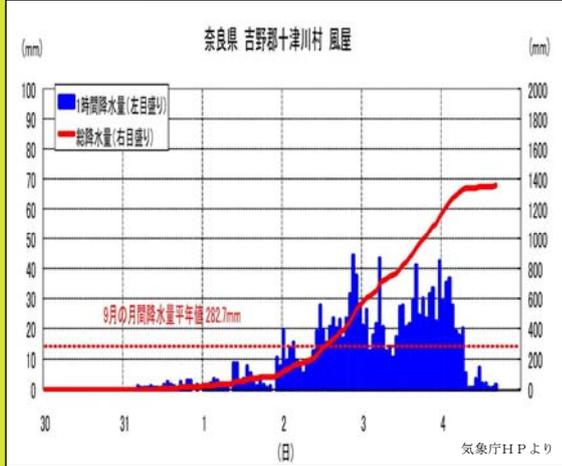




雨量の状況

★ 一部の地域では解析雨量で2,000mmを超えるなど、記録的な大雨



○奈良県上北山村
総降水量1808.5mm

○風屋観測局

- ・時間最大44.5mm
- ・降り出しからの5日間で、1,358mmの雨量を観測



河道閉塞と山腹崩壊の状況

総面積
約260ヘクタール
に及ぶ山腹崩壊が、村内
各地で発生。



崩壊土砂量 約1,390万³

崩壊土砂量 約680万³

 **河川の水位上昇**

平水時 9月4日6:30



水位

写真は大字小原 十津川中学校付近

 **折立橋 落橋状況**

(9月4日)
(1時42分覚知)







ライフラインの途絶 1

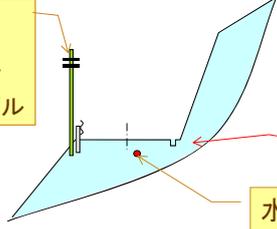


▲崩れ落ちた村道と共に切断した電線類(谷垣内地内)



▲道路の崩壊で作業車輛入れず、復旧に遅れ

電気
電話
CATV
光ケーブル



道路崩壊

水道
温泉

山間部での一般的な道路断面

◎ **ライフラインは道路
の崩壊と共に切断!**



▲衛星携帯も役場に1台だけ!



ライフラインの途絶 2

村内いたるところで停電、電話が不通、テレビがみえない



寸断された電線類

・電話が通じないので、安否情報を伝えられない
・役場に救助要請ができない
・テレビが見られず、今の状況が分からない

※ 消防無線とアマチュア無線



建物と人的被害の状況

○建物被害の状況

全壊 18棟

半壊 30棟

床下浸水 14棟

○人的被害の状況

死者 6名

行方不明者 6名

重傷者 3名



台風による問題点

情報不足と孤立

役場職員6割しか出勤できず

そのうち3割は消防団員



各方面からの支援



国土交通省

地方整備局による支援の状況



▲現地を調査するTEC-FORCE隊員



▲落橋した国道168号折立橋



▲十津川村役場内



▲大雨により崩落した国道168号(桑畑)



▲ku-sat(衛星アンテナ)の設置

■ 緊急災害対策派遣隊(TEC-FORCE)より大きな支援を受けた。
 ■ リエゾン(現地情報連絡員)の派遣

● 人的支援

専門家・職員の派遣による被災調査支援を受けた。

- 被災状況調査支援
- 土砂災害危険箇所、建物の危険度判定等点検
- 災害対策機材が操作できるスタッフの派遣
- 道路・河川被災、土砂災害等での技術指導
- リエゾン(現地情報連絡員)の派遣

● 災害対策用機械・資機材等の支援

機械・資材・機材の派遣による被災地支援を受けた。

- ヘリによる上空からの災害状況調査
- 照明車の派遣により夜間の作業も可能
- 応急組み立て橋は交通路の緊急確保が可能
- 水や非常食等の運搬



災害現場の斜面判定



建物危険度判定



スタッフの派遣



災害対策用ヘリ



応急組み立て橋



役場では情報収集、対策本部会議等にも出席



照明車



照明車





整備局移管について

■ 整備局

- ◎ 大水害でのすばやい対応、支援に感謝
- ◎ 日常管理で地元を把握
- ◎ 全国からの応援態勢
- ◎ 機材・設備のストック

➔

■ 広域連合

- ◎ 奈良県は未加盟
- ◎ 現地を知らない他府県が災害に迅速対応できるか不安
- ◎ 過疎地域への対応不安

現状以上となる説明がない限り移管には反対！



自衛隊による支援の状況 1



▲集落への物資輸送



▲被災住居の土砂出し支援



自衛隊による支援の状況 2



▲倒壊家屋での行方不明者捜索



▲行方不明者捜索



奈良県や市町村による支援の状況



▲奈良県現地災害対策本部部員



▲給水等の支援をする市町村職員



現在の避難状況 (平成24年11月19日現在)

- 避難指示
2地域 4世帯 5名
(3世帯3名は仮設住宅)
- 自主避難
7地域 7世帯 17名
- 仮設住宅
4力所 26世帯 57名
- 合計 76名 避難中

十津川村が存在する・価値・責務

- ◎ 山を守る事
- ◎ 川を治める事
- ◎ 道路はじめライフラインを守る事
- ◎ 人を守る事
- ◎ 地球環境を守る事

復旧復興の 対策・課題

 ◎ 国土交通省による長殿谷緊急対策工事

撮影ポイント①

撮影ポイント②



平成23年10月9日



平成24年5月14日



平成23年10月9日



平成24年5月14日

◎ 紀伊山地砂防事務所 提供

 ◎ 国土交通省による栗平緊急対策工事
◎ 台風17号による応急工事の被害状況

平成24年9月20日撮影



6月中旬に仮排水路が完成

平成24年10月1日撮影



侵食により土砂が流出

◎ 紀伊山地砂防事務所 提供

 **今後の課題 1**
■ 山腹崩壊箇所への対策

◎ 河に土砂を運ぶ根源の復旧

長殿  杉清  野尻 

今西  桑井 

 **今後の課題 2**
■ 河川内堆積土砂の対応

◎ 河床上昇に伴いさらなる災害の危険

◎ 土砂の搬出先

◎ 土砂の運搬方法

◎ ▼土砂撤去 前  ◎ ▼土砂撤去 後 



今後の課題 3

■ 深層崩壊対策のあり方



ソフト対策

- ・調査、探査技術(航空レーザー測量、空中電磁波探査)による危険箇所把握
- ・監視技術(大規模崩壊監視システムなど)による発生位置の特定

技術の向上
により進歩

ハード対策

- ・発生後の被害軽減・復旧が主体

予防的な対策は確立されていない

予防的な対策が可能となるよう、対策技術の向上と事業・制度の改善が必要

➔

中山間地域を守ることは国土の保全と住民のくらしにつながる



今後の課題 3

■ 深層崩壊対策のあり方

◎砂防

◎安心・安全な地域

◎三位一体の整備

◎道路

◎河川

◎林業振興



◎観光振興



◎世界遺産 小辺路

◎過疎からの脱却

